

かさかけ 公民館だより

編集
笠懸公民館編集協力員会
みどり市笠懸公民館
発行
みどり市笠懸公民館

〒379-2311
みどり市笠懸町阿左美1581-1
電話：0277-76-2211
FAX：0277-76-2836
Eメール：kouminkan
@city.midori.gunma.jp



思い出をデコレーション!
「世界に一つ」宝物づくり

▲色とりどりのパーツに目移り！完成を想像しながら慎重にセレクト



▲お姉さんと一緒に「できた！」

年代や学校の垣根を越えて触れ合ったこの日は、年度末を締めくくるかけがえのない思い出となったようです。

笠懸公民館で3月1日(日)、講師に大矢宏美さんを迎え「ホイップデコの小物入れ作り教室」が開催されました。定員に対し4倍を超える申し込みという大変人気の講座で、当日は抽選で当選した市内の小学生29人が参加しました。

運営には7人の中学生がボランティアとして協力。開始1時間半前から熱心に手順を学んだ中学生たちは、緊張しながらも受付や補助で頼もしく活躍しました。

制作では、講師の丁寧な指導や、ボランティアのアドバイスを参考に、子どもたちが色とりどりのパーツを組み合わせて自分だけの作品を完成させました。

参加者からは「自分らしくデコレーションできてうれしい」と笑顔が弾け、ボランティアからも「子どもとの交流が良い経験になりました」との声が寄せられました。



▲自分らしさが詰まった宝物

1年の思い出を 文集に

ベビーキッズクラブは2月7日(土)、笠懸公民館で活動を行い、子ども12人と保護者9人が参加しました。

始まりは朝のあいさつからです。根岸先生に名前を呼ばれると、子どもたちは元気に返事をしていました。その後、童謡の「雪」を歌いながら手拍子をしたり、雪のお話を聞いたりと、冬の季節を感じるひとときを過ごしました。

この日は文集作りです。



▲思い出を振り返りながら



▲お友達と一緒に元気いっぱい

保護者は配られた写真で1年の思い出を振り返りながら、写真を丁寧に取り貼りして、思い出いっぱいの1ページを作りました。

その間、子どもたちは先生と一緒にブロックやぬいぐるみ、滑り台などの遊具で元気いっぱい遊びます。室内には楽しそうな声があがっていました。最後は英語の曲に合わせてダンスを踊り、締めくくりました。完成した文集は、子どもたちの成長と笑顔があふれた、かけがえのない宝物になりそうです。

地域を繋ぐ

地区公民館連絡協議会

第4回みどり市笠懸町地区公民館連絡協議会全体会が、2月19日(土)に笠懸公民館で開催され、令和7年度の活動を振り返りました。

本協議会として参加した笠懸地域文化祭では、恒例となった模擬店を出店。初日はあいにくの雨模様でしたが、2日間にわたり地区を越えた協力体制で運営し、多くの来場者に喜ばれていました。悪条件下でも一致



▲1年間、地域を支えた館長・主事の皆さん

公民館活動を支える 利用者の会理事会

利用者の会理事会在が2月19日(土)に、笠懸公民館で開催されました。

今後の課題として話し合われたのが、次期役員の選出についてです。現在、多くの会で「役員になり手不足」が大きな悩みとなっています。利用

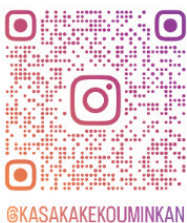
者の会も例外ではなく、このままでは活動の維持が難しくなることが懸念されています。

公民館活動は、利用者一人ひとりの協力があるからこそ成り立つものです。会の存続と、より良い公民館活動を継続していくため、少しでも多くの人に関心を持ってもらい、一緒に活動していけるといいですね。

笠懸公民館 SNS 紹介

←Instagram
フォローしてね!

YouTube→
見てね!



@KASAKAKEKOUJINKAN



お手持ちのスマホでご覧ください!!

団結したこの活動は、地域の連帯感を高める貴重な機会でした。
また、各地区における納涼祭や子ども八木節教室の開催など、地域に根ざした日々の活動が、区民の笑顔と地域の活気を支えました。

始動!! 文化祭企画広報部会

文化祭企画広報部会が3月5日(木)に開催され、秋の「笠懸地域文化祭」に向けた準備が始まりました。まずは役員選出で、次のとおり決定しました。(敬称略)

◆部長 高野富由美
副部長 小林房江

大槻さゆり

新体制のもと、今年度もテーマ「参加から参画、そして新しい仲間づくりへ」、サブテーマ「つながれ地域

地域と歩む 公民館運営

みどり市公民館運営審議会第3回笠懸部会が、2月5日(木)に笠懸公民館で開催されました。今回の会議では、事業実施状況報告とともに、今後の公民館運営に向けた活発な協議が行われました。

今年度は、市民講座、青少年教室、高齢者大学など、



▲真剣な議論が続きます

のWA」を掲げ、地域の文化活動の成果発表と交流促進を目指します。

開催日は10月24日(土)・25

多世代を対象とした多彩な事業を展開し、多くの人が参加しました。会議では、事業内容の報告に対し、委員から様々な意見が出されました。

特に、テーマが防災の市民講座では「地域コミュニティの醸成が重要」との意見や、講座のPR方法、音楽体験講座の開催要望など、活発な意見交換がありました。

このほか、文化祭の実施

日(日)を予定。現在、多世代が楽しめる体験型企画や、会場を巡って楽しめる参加型イベントなど、来場者により満喫できる仕掛けを検討しています。

ボランティアや地域団体との連携にも取り組み、多様な世代が交流できる場づくりを進めていきます。

また、現在、展示・イベント・ステージ部の参加者を募集しています(5月31日まで)。

※ポスターデザインの募集は、詳細が決まり次第、改めてお知らせします。

報告や次年度の運営方針などについても報告がありました。

審議会での貴重な意見を反映させ、今後も地域のニーズに寄り添い、誰もが気軽に参加できる公民館づくりをしてほしいですね。



笠懸地域文化祭 参加者募集!!

令和8年度

開催日 令和8年 10月24日(土)・10月25日(日)

会場 展示部門：笠懸公民館
イベント部門：笠懸公民館および屋外周辺
ステージ部門：笠懸野文化ホール PAL

参加資格 主に笠懸地域で活動している団体及び個人であり、実行委員を選出し、文化祭の運営に協力できること。
※実行委員は全3回の実行委員会に出席してください(要望)

申込方法 笠懸公民館にある申込書に必要事項を記入して、公民館窓口へ提出してください。
※複数の部門に参加する場合は、それぞれの部門に実行委員を選出してください。

申し込み締めきり 5月31日(日) 厳守

その他 食品衛生法等の規定により、食べ物を扱う場合は1団体1品でお願いします。



みどモス

主催・問合せ先 みどり市笠懸公民館 電話：0277-76-2211 FAX：0277-76-2836
メール：kouminkan@city.midori.gunma.jp

詩画の世界にふれる二日間

言葉と絵が紡ぐひととき

笠懸公民館では、詩画の魅力を紹介する連続講座「富弘美術館を知ろう」の第2講と第3講を開催。詩と絵が一体となった表現の奥深さや、心に響く言葉の力を体感できる講座。その様子をレポートします。

心に響く

言葉と絵

第2回は「鑑賞のポイント・詩画を書くには？」がテーマ。笠懸公民館ふるさとギャラリーで2月11日(水)に開催されました。講師は富弘美術館学芸員・相崎ひろさんです。

詩画とは詩と絵が一体となった表現で、相崎さんは「詩画は自分の心の声を素直に表現することが大切」



▲入賞作品の魅力を解説

と語り、文字の大きさや配置も絵の一部として自由に工夫できると説明。ユーモアや弱さも包み隠さず綴られた作品に触れ、参加者は詩画をより身近に感じたようです。

後半の展示鑑賞では、お気に入りの作品を前に、参加者と相崎さんが感想を話し合い、共感しあう場面も見られました。

詩画の制作や鑑賞を通じて、観察力や感情表現、他者への共感を育むことの大切さが伝わる講座でした。

彩りを

添える朗読

第3講が2月21日(土)に笠懸公民館で開催され、45人が参加しました。今回は「星野富弘さんの世界」をテーマ

に朗読グループ「果の会」による詩とエッセイの朗読会です。

朗読の題材に星野富弘さんの著書『愛、深き淵』が選ばれ、多くの来場者はその世界観に耳を傾けました。

果の会は、富弘美術館で朗読会を毎月行っている団体です。今回は、富弘美術館の詩画公募展が笠懸公民館で開催されることを受け、この朗読会が実現しました。

富弘さんの生涯を綴った物語を中心に説明。事故により手足の自由を失いながらも創作を続けた歩みや、当時の心情、創作の原点が、富弘さん自身の言葉と詩を通して丁寧に紹介されました。言葉の一つひとつが静かに響き、会場は深い感動に包まれました。

スクリーンに映し出される映像、キーボードとフルートの生演奏が朗読に彩りを添えます。映像と音楽、語りが織りなす空間が、来場者を富弘さんの詩画の世界へと引き込む講座となりました。

マンドリンの調べ 音色に包まれて

笠懸公民館で第134回「いいいの広場」が、2月28日(土)に開催されました。今回は「マンドリンクラブボニータ」が出演。会場のロビー全体が観客で埋まるほどのにぎわいでした。

「ボニータ」はスペイン語で「美しい」「可愛い」という意味で、その名のとおり、やわらかく美しい音色で観客を魅了しました。演奏では、美空ひばりの「津軽のふるさと」、イル



▲息ぴったりな演奏にうっとり

後半には、千昌夫の「北国の春」や、吉永小百合と橋幸夫による「いつでも夢を」が演奏され、来場者は演奏に合わせて声をそろえ、会場全体が一体感に包まれました。

軽やかなマンドリンの音色が響き、まるで一足早く春が訪れたかのような、温かなひとときでした。



▲この活気！ロビーは超満員！！

世代を超え 笑顔満開!

笠懸町第2区公民館では2月15日(日)に、恒例の「2区公民館で遊ぼう」(第2区福祉部会主催)が開催されました。

8回目を数える今大会。福祉部会をはじめ、各団体の協力により多彩な催しを用意されました。

館内では輪ゴム射的やビンゴボードゲーム、健康麻雀などが人気を集め、「むかしの遊び」コーナーでは



▲『昔の遊び』って新鮮

育成会の綿あめやポップコーンの香りが花を添えました。クライマックスの抽選会では、約150人の参加者全員がホールに集まり、当選番号に一喜一憂。冬の日、世代を超えた大きな笑顔の輪が広がりました。



▲多世代で楽しむ健康麻雀!!

大人たちが子どもにベーマヤメンコのコツを教える微笑ましい光景も。屋外グラウンドでは「モルック」に歓声が上がリ、

市民ポッチャ大会 開かれる

第4回みどり市ポッチャ大会(主催・みどり市)が2月15日(日)、桐生大学グリーンアリーナ(みどり市民体育館)で開催されました。4回目を迎えた今大会には、市内から48チーム(約200人)が参加し、熱戦を繰り広げました。

ポッチャは、ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青それ

各コートでの優勝チーム

- Aコート 大間々ポッチャクラブさくら会
- Bコート 三区ポッチャ同好会C
- Cコート 笠懸B. C C組
- Dコート おおまますポレクB
- Eコート にっこにっこ倶楽部
- Fコート チームヴェルデア
- Gコート 阿左美ポッチャクラブB
- Hコート 笠懸B. C D組
- Iコート 大間々町15区生涯学習C
- Jコート 三区ポッチャ同好会A
- Kコート 笠懸町1区老人クラブC
- Lコート 大間々ポッチャクラブ里の民

ぞれのボールをいかに近づけるかを競う競技です。障がいのある無や年齢、性別を問わず誰でも一緒に楽しめるのが最大の特徴です。今大会は、1チーム3人

4人で構成されたチームが12ブロックに分かれ、総当たり戦形式で技を競いました。参加者は一投ごとに一喜一憂しながら、競技を通じて交流を深めていました。

コラム 豆電球



『ボウリング場の貸し靴が、超ハデなワケ』

ボウリング場でピンを全部倒したストライク、あの瞬間は何ともスカッとするものだ。しかし、

どんなにカッコよく決めたつもりでも、いまひとつパツとしない。なにしろ貸してくれる靴といえば、青や黄色、

レッドブラウンといったド派手な靴ばかり。オシヤレは足元からなんていうが、まったくセンスを疑ってしまう。しかしこれには貸す側の事情がある。

ボウリング場にすれば、これは盗難対策。もし、黒などの見た目普通の靴を貸し出せば、そのまま履いて帰ってしまう人がいないともかぎらない。その点、超ド派手な靴なら、万一、不届き者が現れたとしても、

目立つ色をしているからすぐに盗難品とわかるし、返却を忘れてもすぐ気がつくというわけだ。

しかしながら、ボウリングはそういうものだと思ってしまうえば、あの派手な靴もなかなかのオシャレなアイテムに見えてくるかもしれない。いずれにしても、世の中に泥棒がいなくなれば、ボウリング場の貸し靴も、まともになるかも。

学びの成果を地域で共有 みどり市生涯学習大会

日頃の学習成果を発表し、地域住民が生涯学習の意味を再発見する「第20回みどり市生涯学習大会」が2月14日(土)、笠懸野文化ホールPALで開催されました。当日は約300人が来場し、式典や活動発表、生涯学習講演会を通じて「学び」の意義を再確認しました。

努力称える表彰式 心に響く演奏会

式典では、文化・スポーツの分野で全国や県レベルの優れた成績を収めた小学生3人に対し、市教育委員会表彰が行われました。続く活動発表では、大間々町を拠点とする「ほほえみハーモニカクラブ」が登場。



▲努力が結実!

みどり市教育委員会表彰被表彰

※敬称略

氏名	所属(学校名)	表彰理由
やっさか 八坂 莉愛	あずま小中学校 7年(中学1年)	生涯にわたっての口腔衛生についてのスローガンとなるような標語を作成し、日本歯科医師会より入選表彰を受けたため
たかくさぎ 高草木 あおい 葵	大間々北小学校 4学年	JJGA ジャパンジュニアゴルフオールスター 八歳・九歳男子の部 優勝
きど 木戸 はぐわ 育和	あずま小中学校 8年(中学2年)	第75回社会を明るくする運動群馬県推進委員会 作文コンテスト最優秀賞(県知事賞)



▲ホールに響くハーモニカの音色

場。「長崎の鐘」など馴染み深い4曲を披露しました。ホールに響き渡る繊細で温かい音色に、会場からは惜しめない拍手が送られました。

くぼてんきさんが 防災講演

後半は、日本テレビ「ZIP-PI」の気象キャスターとして活躍するくぼてんきさんが登壇。「あしたてんきになあれ」と題し、気象予報士・防災士・紙芝居師という多彩な視点から講演を行いました。

講演では、天気まつわることわざをクイズ形式で

防災を考える

63

職場・学校の防災術

4月から新しい職場・学校という人も多いと思います。勤務先や学校で大きな地震があった時の備えは大丈夫ですか？ハザードマップで勤務地や学校、通勤通学路の危険性を把握しておくことや、帰宅できない場合に家族とどう連絡をとってどう行動するかなど考

えておきたいですね。大災害の際は無理して帰宅すると混乱に巻き込まれる可能性もあります。できるだけその場にとどまり、安全を確保して冷静に行動しましょう。職場や学校でどのような防災対策がとられているか、知っておくと良いですね。



▲クイズを交え楽しく解説

出題するなど、大人から子どもまで楽しめました。参加者は身近な気象現象や防災の知識に驚きの声を上げ、熱心にメモを取る姿も見られました。最後は「詳細な防災情報は、気象庁のホームページを積極的に活用

してほしい」と締めくくり、日頃の備えの大切さを訴えました。

このころの ひろば

テクテクお城歩き(59)

小牧山城 歩遊人

愛知県小牧市にある小牧山城は続日本100名城の一つです。資料によれば、小牧山城が歴史の舞台上に登場するのは永禄6(1563)年で、織田信長が築城しました。その4年後、信



▲小牧山城 天守

※小牧山・長久手の戦い
織田信長の跡目をめぐって天下を狙う羽柴秀吉と織田信雄・徳川家康連合軍の戦い。軍事的勝者は徳川家康で、政治的勝者は羽柴秀吉といわれます。



このコーナーは、市民のみなさんの交流の場です。サークルの会員募集やイベントのお知らせ、投稿など、何でも原稿をお寄せください。(しめきり毎月10日)

長は稲葉山城(岐阜城)に居を移したため廃城となります。そして天正12(1584)年、小牧山・長久手の戦いが起きると、織田信雄・徳川家康連合軍が小牧山の城跡を大改修して本陣としたようです。江戸時代に入ると家康ゆかりの地として保護され、現在でも多くの土塁や堀などが残っています。

上毛かるたり

御朱印レディー

理想の電化に

電源群馬

私たちの生活に欠かせない電力は、水力や火力、原子力、風力など様々なエネルギーから生まれます。

群馬県を源とする利根川水系の水は、戦前から県内のみならず首都圏へも供給され、生活や農業を支えてきました。この豊富な水量を利用した水力発電所は、県内に81カ所を数えます。今の絵札に描かれているのは、昭和43(1968)年に完成した「下久保ダム」です。画家の小見辰男



▲下久保ダム

が、巨大ダムの建設現場を「新日本前進の姿」と捉えて描いたこの札には、「母なる河」への愛着と、電源群馬としての誇りが込められています。

その下久保ダムは、名勝・三波石と隣り合わせにそびえ立っています。この周辺の歴史を辿り、県道23号線をゆくと「龍源寺」に出会いました。天正年間(1573~1593年)に開創されたと伝わる由緒あるお寺です。

祈り

花



短かった秋は終わり、冷たい風の吹く冬を迎えた朝5時。目が覚めて外に出ると瞬く星空が出てくれた。

今日、私は祈る。

あなたが入院した昨日、心臓の手術にはたくさんリスクがあることを説明と共に知らされた。

先生は「手術は1時間

住職によれば、日本昔話でも知られる「二十三日様」が祀られ、御本尊は勢至菩薩とのこと。日本では午年の守り本尊や、十三仏の一周忌本尊として広く親しまれています。



▲龍源寺の御朱印

で終わります」と簡単に言ったけれど、何よりも大切なあなたが元どおり元気に帰れることを祈るばかりだ。

一人ぼっちで朝を迎え、一人ぼっちでコーヒーを飲んだ。知らずに涙がこぼれ、恥ずかしげもなく一人で泣いた。

何事もなかったような顔をして早く帰ってきてね。私の祈りが届きますように。

かさかけ どうぶつ家族 ②⑥

ウルくん (1区)

ウルくんのお父さんはみどり市を住み良い街にするために日夜働いています。年間で休みもほとんどないような大変なお仕事をお母さんも支えています。

5年前、そんなご両親の健康を心配した娘さんがある提案をします。犬と散歩することは心身の健康にとっても良いので、運動量の多い大型犬を迎えて、毎日一緒に散歩したらどうか、と言うのです。

その後しばらくして、ハワイの言葉で『元気に育つてね』と思いを込めて家族

に迎えられたウルくんは、娘さんの期待に見事に応えてくれました。

毎朝、ご夫婦と一緒に散歩することで二人の健康を維持してくれています。

朝日輝く阿左美沼、四季折々の里山が広がる鹿田山フットパス、いろいろみどりの市内をウルくんと歩くと心も癒され、足取り軽く、歩く距離も延びます。

気立ての良いウルくん、忙しいお父さんがどんなに遅く帰宅しても、車の音に反応し、太い尻尾を全力で振ってお出迎えます。

「おかえりなさいー」の一吠えにお父さんの疲れも吹き飛びます。

子どもたちが皆巣立ち、お母さんにとってもウルくんの存在は癒しそのものです。



▲ウルくん

東京で暮らす娘さんは月に一度は帰省して、両親を支えてくれるウルくんを心からねぎらいます。

笠懸短歌サークル

二月例会より



突然の訃報の続く日常に次は吾かとふと胸の冷ゆ

連日の競技楽しむ冬季五輪時間を忘れ夜更かし続く

弔辞よみ明日は選挙の投票日何故か震へる極寒の夜

来る年は還暦となる末の娘がついと差し出すバレンタインチョコ

明日よりのみそ汁作りの準備にて冷蔵庫のぞき具材をさがす

上村 征子

加藤 康子

久保田茂子

関口 定夫

平山 勇

～お知らせ～

本紙の歩みとともに、長年にわたり、季節の彩りを俳句で届けてくださった「四季の会」の皆様が、先月号をもちまして本紙への掲載を終了されました。

長きにわたるご投稿は、心に豊かな潤いを与えてくださいました。これまでの多大なご協力に深く感謝申し上げます。

笠懸公民館報編集協力委員会
みどり市笠懸公民館

ちょっと一息



最近、お店に来る中学生4人組がいる。自転車のかごに虫取り網があり、以前、鹿田山の近くでも網を持ったその4人組を見かけたことがあった。聞いてみると、昆虫全般に興味があり昆虫採取をしていると。

ハチの話になり、詳しく教えてくれて勉強になった。なんとスズメバチの女王バチを容器に入れて持ちあるいているというので見せてもらう。「攻

撃しなければおとなしいんですよ」と優しい口調でハチへの愛情を感じた。TVの「博士ちゃん」に出演してもいいくらいの博識だった。

次の来店時には、キイロスズメバチの空っぽの巣を仲間にあげるといっているので見せてもらった。「笠懸の虫の博士ちゃんたち」と呼ばせてもらおう。また「虫講座」聴きたいね。



(美)